

発行日：2024年07月26日

改訂日：2025年06月12日

エコアクション21

2023年度 環境経営レポート

対象期間 2023年04月01日 ～ 2024年03月31日



青森三菱自動車販売株式会社
青森スズキ自動車販売株式会社

～ 目 次 ～

組織の概要及び取組の対象範囲・事業の規模	・・・	P 0 1	～	P 0 2
環境経営方針	・・・	P 0 3		
環境マネジメント実施体制	・・・	P 0 4	～	P 0 5
短期環境経営目標及び中期環境経営目標	・・・	P 0 6		
当期環境経営計画・方針及び環境経営目標を 達成するための取組	・・・	P 0 7	～	P 0 9
環境経営目標の年間実績	・・・	P 1 0		
環境経営目標の実績評価	・・・	P 1 1	～	P 1 7
環境関連法規の遵守状況とその評価 及び違反・訴訟・苦情等の有無	・・・	P 1 8		
代表者による取組状況の評価及び是正・見直し 次年度における課題とチャンスの明確化	・・・	P 1 9		

① 組織の概要

イ) 取組事業所名

- ・青森三菱自動車販売株式会社
- ・青森スズキ自動車販売株式会社

ロ) 代表者名

- ・代表取締役 佐々木 聡

ハ) 環境管理責任者

- ・常務取締役営業統括本部長 佐藤 一郎

二) 事業の概要

- 1) 新車・中古車及び部用品の販売
- 2) 自動車の車検・点検及びその他整備
- 3) 保険代理業務・車のレンタル事業

ホ) 代表メールアドレス及びホームページ

E-Mail : info@aoji.co.jp

U R L : https://www.aomori-mitsubishi-motor-sales.com/

へ) 取組事業所の所在地及び認証・登録の対象範囲

認証・登録の対象事業所	住 所	電 話 番 号	年度末所属人数	延 床 面 積
本社・青森西バイパス店	青森県青森市石江四丁目1番地2号	017-781-3313	44人	2,478.17㎡
弘 前 店	青森県弘前市大字高崎一丁目8-3	0172-28-3401	13人	1,147.86㎡
五 所 川 原 店	青森県五所川原市大字姥范字船橋247-1	0173-35-2744	10人	834.08㎡
八 戸 下 長 店	青森県八戸市下長三丁目19-5	0178-28-3911	18人	1,116.99㎡
十 和 田 店	青森県十和田市大字三本木字北平195	0176-23-4121	10人	531.42㎡
む つ 店	青森県むつ市大平町3-3	0175-24-1257	7人	865.84㎡
問屋町ポディー工場	青森県青森市第二問屋町三丁目2-8	017-739-4361	6人	420.36㎡
中 古 車 部	青森県八戸市大字長苗代字前田29-2	0178-27-1201	5人	スズキアリーナ八戸駅通事務所内
スズキアリーナ合浦公園	青森県青森市浪打二丁目11-17	017-763-5015	14人	1,027.11㎡
スズキアリーナ弘前高崎	青森県弘前市大字高崎一丁目7-1	0172-55-5588	8人	137.92㎡
スズキアリーナ八戸駅通	青森県八戸市大字長苗代字前田29-2	0178-27-0111	12人	842.88㎡

年度末所属人数合計

147人

ト) 事業の規模

活 動 実 績	単 位	実 績 年 度			
		2023年度	2022年度	2021年度	基 準 年 度
売 上 高	百万円	6,036.13	5,492.88	5,894.76	
新 車	百万円	3,901.24	3,523.69	3,473.61	
中 古 車	百万円	1,005.79	891.69	1,103.35	
サ ー ビ ス (整 備)	百万円	1,129.10	1,077.50	1,317.80	
取 扱 台 数	台	48,159	47,548	51,035	
販 売 台 数 新 車	台	1,777	1,505	1,343	
販 売 台 数 中 古	台	1,723	1,533	1,554	
入 庫 台 数 整 備	台	44,659	44,510	48,138	

① 組織の概要

チ) 環境負荷の推移

・各基準年度に基づく環境負荷は下記の通り

管 理 指 標	区 分	単 位	当 期	前 期	前 々 期
			2023年度	2022年度	2021年度
基 準 年 度 売 上 高		百万円	6,036.13	5,492.88	5,894.76
1. エネルギーの効率的使用及び温室効果ガスの排出抑制					
電 力 使 用 量	実 数	Kwh	751,729.00	745,449.00	728,634.00
	原 単 位	Kwh / 百万円	124.54	135.71	123.61
電 力 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	354,064.36	351,106.48	398,562.80
ガ ソ リ ン 購 入 量	実 数	ℓ	65,794.71	66,454.47	60,789.63
	原 単 位	ℓ / 百万円	10.90	12.10	10.31
ガ ソ リ ン 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	152,643.73	154,174.37	141,031.94
軽 油 購 入 量	実 数	ℓ	33,558.89	37,147.20	38,341.96
	原 単 位	ℓ / 百万円	5.56	6.76	6.50
軽 油 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	86,581.94	95,839.78	98,922.26
灯 油 購 入 量	実 数	ℓ	42,647.47	38,980.90	38,243.62
	原 単 位	ℓ / 百万円	7.07	7.10	6.49
灯 油 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	106,192.20	97,062.44	95,226.61
A 重 油 購 入 量	実 数	ℓ	16,000.00	20,594.10	17,000.00
	原 単 位	ℓ / 百万円	2.65	3.75	2.88
A 重 油 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	43,360.00	55,810.01	46,070.00
都 市 ガ ス 使 用 量	実 数	m ³	158.00	192.00	223.10
	原 単 位	m ³ / 百万円	0.03	0.03	0.04
都 市 ガ ス 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	341.28	414.72	481.90
L P G ガ ス 使 用 量	実 数	Kg	326.80	323.40	286.60
	原 単 位	Kg / 百万円	0.05	0.06	0.05
L P G ガ ス 温 室 効 果 ガ ス 排 出 量	実 数	Kg - Co2	980.40	970.20	859.80
温 室 効 果 ガ ス 総 排 出 量	実 数	Kg - Co2	744,163.90	755,378.00	781,155.31
	原 単 位	Kg - Co2 / 百万円	123.29	137.52	132.52
2. 資源の効率的使用					
水 資 源 使 用 量	実 数	m ³	4,766.00	5,562.00	5,139.00
水 資 源 使 用 量	原 単 位	m ³ / 百万円	0.79	1.01	0.87
3. 廃棄物の排出抑制と適正処理 (売却引渡は再生資源となる廃棄物)					
一 般 廃 棄 物 処 分 委 託 量	実 数	Kg	17,504.00	14,198.00	17,665.50
産 業 廃 棄 物 処 分 委 託 量	実 数	Kg	63,047.00	65,355.50	61,825.00
特 別 管 理 産 業 廃 棄 物 処 分 委 託 量	実 数	Kg	446.50	681.00	715.00
廃 棄 物 処 分 委 託 量 合 計	実 数	Kg	80,997.50	80,234.50	80,205.50
	原 単 位	Kg / 百万円	13.42	14.61	13.61
一 般 廃 棄 物 売 却 引 渡 量	実 数	Kg	17,509.00	18,084.00	15,187.00
産 業 廃 棄 物 売 却 引 渡 量	実 数	Kg	109,177.00	114,795.00	111,723.00
廃 棄 物 売 却 引 渡 量 合 計	実 数	Kg	126,686.00	132,879.00	126,910.00
5. 地球環境の保全					
P R T R 法 特 定 化 学 物 質 購 入 量	実 数	Kg	1,102.95	1,035.62	1,762.82
P R T R 法 特 定 化 学 物 質 購 入 量	原 単 位	Kg / 百万円	0.18	0.19	0.30

※ 集計期間は基準・実績及び推移年度共に4月～3月

※ 売却引渡を行っている廃棄物は再生資源として処理が行われている。

② 環境経営方針

青森三菱自動車販売株式会社 及び 青森スズキ自動車販売株式会社 は環境経営方針を下記の通り策定し、企業経営に当たって環境への取組を推進しております。

青森三菱自動車販売株式会社・青森スズキ自動車販売株式会社 環境経営方針

環境経営方針

青森三菱自動車販売株式会社は、自動車の販売・サービス（整備）及び関連する事業活動を通じて、地球環境の保全が最重要課題であることを認識し、また、よき企業市民として、地域への環境保全活動に自主的かつ積極的に取り組み、次世代に住みよい社会を残せるように努力します。

基本方針

- 1.当社は、自動車の販売、サービス（整備）を通じてエネルギーの使用や廃棄物の排出などを認識し、お客様のエコライフをサポートする様な省エネ車の販売、エコ整備、エコドライブ等の取組を推奨し、生態系の保全等、環境保全に努めます。
- 2.環境に関する法令・規則・協定等を遵守し、環境保全レベルの向上に努めます。
- 3.当社の事業活動が環境に与える影響を正しく認識し、環境経営目標及び社内外の課題とチャンス
を明確にし、全社員による継続的な環境負荷低減に取り組めます。
- 4.電力使用量・廃棄物総量・温室効果ガス及び水使用量の削減並びにリサイクルの促進
グリーン購入（中古部品の活用）の促進に努めます。
- 5.定期的な環境監査により活動を認識し、環境管理の維持向上を図ります。
- 6.環境経営方針を全社員に周知するとともに一般に公開し、地域社会に貢献します。

青森三菱自動車販売株式会社
青森スズキ自動車販売株式会社

代表取締役社長

佐々木 聡

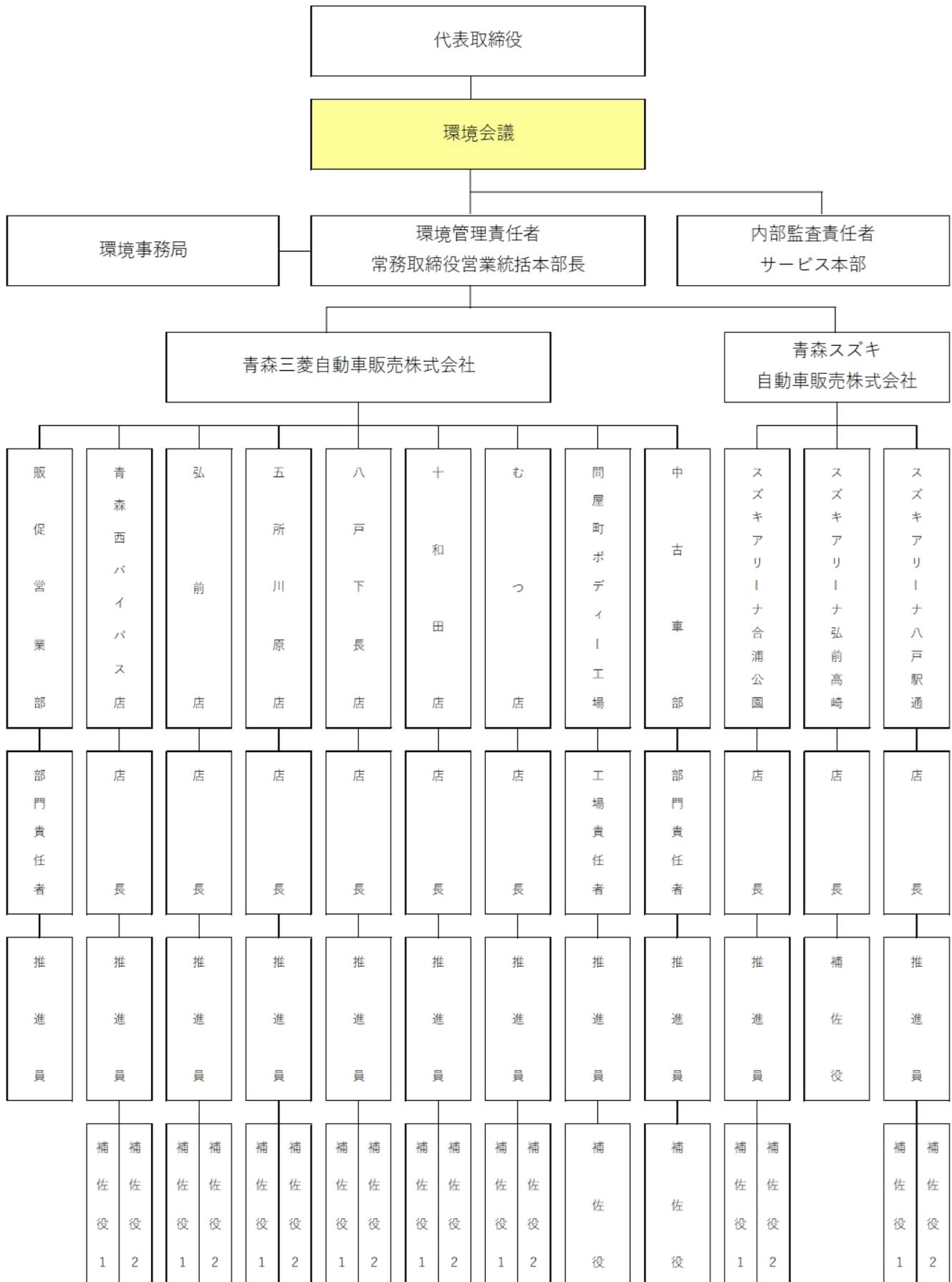
制 定 日：2008年 5月10日

最新改訂日：2023年 5月31日

前回以前の改訂日は省略

③ 目標を達成するための実施体制

2023年度 環境マネジメント実施体制組織図



③ 目標を達成するための実施体制

主な推進者の役割、責任及び権限

E A 2 1 の役割	社内職制	役割・責任・権限
代表者	社長	1. 環境管理責任者・環境監査責任者を任命し、実施体制を構築する
		2. 環境方針の制定
		3. 環境マネジメントシステムの実施および管理に必要な資源の準備
		4. 環境マネジメントシステムの評価や見直しを実施し、必要な指示を行う
		5. 内部環境監査の実施の指示
		6. 経営における課題とチャンスを確認にする
環境管理責任者	役員	1. 環境マネジメントシステムの確立及び実施・維持を推進
		2. 環境負荷・環境取組状況の把握及び評価
		3. 環境目標・環境活動計画の策定
		4. 環境経営マニュアルの制定
		5. 緊急事態対応手順の策定
		6. 取組状況の評価及び環境会議（社長）への報告
		7. 問題が発生した場合の是正処置等の指示
		8. 環境活動レポートの承認
環境事務局	部長	1. 環境管理責任者の補佐
		2. 環境関連法規等の取りまとめ及び最新情報の収集
		3. 環境方針の立案
		4. 環境目標・環境活動計画の立案
		5. 環境経営マニュアルの立案
		6. 緊急事態対応手順の立案
		7. 取組手順書（運用手順・運用基準・監視・測定基準・記録）の作成
		8. 各部門（店舗）の取組状況の取りまとめ
		9. 教育・訓練計画の作成
		10. 文書・記録類の管理
		11. 環境活動レポートの作成
環境責任者	各部門長及び店長	1. 部門（店舗）の環境マネジメントシステムの確立及び実施、維持を推進
		2. 部門（店舗）の環境活動計画の策定
		3. 教育・訓練の実施
		4. 外部からの苦情等への対応及び環境管理責任者への報告
		5. 緊急事態対応の訓練実施
		6. 部門（店舗）の取組状況の評価及び環境管理責任者への報告
		7. 問題が発生した場合の是正処置等の実施
環境推進員	各部門課長	1. 部門（店舗）の環境活動計画の立案及び推進
		2. 部門（店舗）の取組状況の把握及び環境責任者への報告
環境推進員補佐役	各部門員	1. 実際の活動・取組みにおいて環境推進員を補佐する。
		2. 文書・記録において環境推進員を補佐する。
内部監査責任者		1. 環境マネジメントシステムがガイドラインの要求事項及び組織が定めたルールに適合しているかをチェックする。
		2. 環境経営目標の達成状況及び活動計画が適切に実施されているかチェックする

④ 短期環境経営目標及び中期環境経営目標

使用エネルギー等	単位	< 基準年度 >		< 実績年度 >		< 中期目標 >			
		基準年度	2022年度	対象年度	2023年度	対象年度	2024年度	対象年度	2025年度
電力使用量	Kwh	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	745,449.00	削減目標値	723,085.53	削減目標値	715,631.04	削減目標値	708,176.55
電力温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	0.471	排出係数	0.471	排出係数	0.471	排出係数	0.471
		基準年度実績	351,106.48	削減目標値	340,573.28	削減目標値	337,062.22	削減目標値	333,551.16
ガソリン購入量	ℓ	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	66,454.47	削減目標値	64,460.84	削減目標値	63,796.29	削減目標値	63,131.75
ガソリン温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	2.320	排出係数	2.320	排出係数	2.320	排出係数	2.320
		基準年度実績	154,174.37	削減目標値	149,549.14	削減目標値	148,007.40	削減目標値	146,465.65
軽油購入量	ℓ	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	37,147.20	削減目標値	36,032.78	削減目標値	35,661.31	削減目標値	35,289.84
軽油温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	2.580	排出係数	2.580	排出係数	2.580	排出係数	2.580
		基準年度実績	95,839.78	削減目標値	92,964.58	削減目標値	92,006.18	削減目標値	91,047.79
灯油購入量	ℓ	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	38,980.90	削減目標値	37,811.47	削減目標値	37,421.66	削減目標値	37,031.86
灯油温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	2.490	排出係数	2.490	排出係数	2.490	排出係数	2.490
		基準年度実績	97,062.44	削減目標値	94,150.57	削減目標値	93,179.94	削減目標値	92,209.32
A重油購入量	ℓ	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	20,594.10	削減目標値	19,976.28	削減目標値	19,770.34	削減目標値	19,564.40
A重油温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	2.710	排出係数	2.710	排出係数	2.710	排出係数	2.710
		基準年度実績	55,810.01	削減目標値	54,135.71	削減目標値	53,577.61	削減目標値	53,019.51
都市ガス使用量	m ³	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	192.00	削減目標値	186.24	削減目標値	184.32	削減目標値	182.40
都市ガス温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	2.160	排出係数	2.160	排出係数	2.160	排出係数	2.160
		基準年度実績	414.72	削減目標値	402.28	削減目標値	398.13	削減目標値	393.98
LPGガス使用量	Kg	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	323.40	削減目標値	313.70	削減目標値	310.46	削減目標値	307.23
LPGガス温室効果ガス排出量	Kg-Co2	排出係数	3.000	排出係数	3.000	排出係数	3.000	排出係数	3.000
		基準年度実績	970.20	削減目標値	941.09	削減目標値	931.39	削減目標値	921.69
温室効果ガス総排出量	Kg-Co2	基準年度	2022年度	削減目標	▲3.0%	削減目標	▲4.0%	削減目標	▲5.0%
		基準年度実績	755,378.00	削減目標値	732,716.66	削減目標値	725,162.88	削減目標値	717,609.10
水資源使用量	m ³	基準年度	2021年度	基準年度	▲3.0%	基準年度	▲4.0%	基準年度	▲5.0%
		基準年度実績	5,139.00	基準年度実績	4,984.83	基準年度実績	4,933.44	基準年度実績	4,882.05
一般廃棄物処分委託量	Kg	基準年度	2022年度	基準年度	▲3.0%	基準年度	▲4.0%	基準年度	▲5.0%
		基準年度実績	14,198.00	基準年度実績	13,772.06	基準年度実績	13,630.08	基準年度実績	13,488.10
産業廃棄物処分委託量	Kg	基準年度	2022年度	基準年度	▲3.0%	基準年度	▲4.0%	基準年度	▲5.0%
		基準年度実績	65,355.50	基準年度実績	63,394.84	基準年度実績	62,741.28	基準年度実績	62,087.73
特別管理産業廃棄物処分委託量	Kg	基準年度	2022年度	基準年度	▲3.0%	基準年度	▲4.0%	基準年度	▲5.0%
		基準年度実績	681.00	基準年度実績	660.57	基準年度実績	653.76	基準年度実績	646.95
廃棄物処分委託量合計	Kg	基準年度	2022年度	基準年度	▲3.0%	基準年度	▲4.0%	基準年度	▲5.0%
		基準年度実績	80,234.50	基準年度実績	77,827.47	基準年度実績	77,025.12	基準年度実績	76,222.78
クリーンエネルギー車の販売促進				EV	60台				
				PHEV	210台				
				クリーンディーゼル	100台				
グリーン購入の促進		中古・リビルト部品等の提案を行い、環境負荷を抑える製品の購入・使用等を推進する							

注1：電力の温室効果ガス排出量は東北電力株式会社より公表される2022年度排出係数0.471を用いて算出を行っている

注2：ガソリン・軽油・灯油・A重油・都市ガス・LPGガスの温室効果ガス排出係数は

「地球温暖化対策の推進に関する法律」の単位発熱量と炭素排出係数を用いて算出を行っている

⑤ 環境経営計画・方針及び目標を達成するための取組

当期環境経営計画・方針及び環境経営目標を達成するための取組 その1-1

環境方針1 エネルギーの効率的利用及び温室効果ガスの排出抑制

取組項目

イ) 電力使用量の削減・抑制

(A) 空調温度適正化の実施

- ① 事務所の空調温度は 冷房 28℃ 暖房 20℃ を目安とする 尚 空調温度の目安は温度計を基準とする
- ② ショールームの空調温度は 冷房 26℃ 暖房 22℃ を目安とする 尚 空調温度の目安は温度計を基準とする
- ③ 夏期から秋季にかけてクールビズを実施する。冷房温度は上記が目安だが、必要な場合は調整を行う
- ④ ブラインドや遮光フィルム等により太陽光を遮断し、余分に冷房を使用しないよう努める

(B) 不要照明の消灯

- ① 昼休み及び時間外活動の部分消灯を徹底する
- ② 会議室や更衣室・給湯室等の常時人がいない場所は使用時以外消灯する
- ③ サービス工場の部分証明の実施（休暇などで使用されていないストール付近を消灯しておく等）

(C) 夜間・休日等はOA機器の主電源を切り節電に努める

(D) 広告塔の点灯・消灯時間の励行

- ① 看板・展示場・駐車場の照明は防犯上必要なもの以外消灯する

(E) パソコンを一定時間以上使用しないときはスリープモードに自動的に移行するように設定を行う

(F) 空調機のフィルター清掃・交換等適正管理（シーズンイン 1回/〇月実施）

(G) 高効率・省エネタイプの蛍光灯やLED、VE型魔法瓶を採用する等 環境負荷を抑えるタイプの製品へ順次切替

ロ) 化石燃料使用量の削減

(A) 社有車の省エネ運転・点検整備を実施

- ① 社員個人省エネ運転やエコ整備の実施を促進する
- ② 点検整備を行い、環境負荷をかけにくい状態で社有車の運用・管理を行っている
- ③ 状況に応じて社有車を低燃費車へ切替を進める
- ④ 青森県一斉スマートムーブ通勤月間へ参加する

(B) ウォームビズ等による冬季の暖房設定の遵守

- ① 設定温度で寒さを感じてしまうお客様用にブランケット等を準備する
- ② ボイラーや燃焼機器の空燃比（空気過剰係数）を低く抑えて運転する

(C) 代車・レンタカーの燃料管理徹底

- ① 代車及びレンタカー等、満タン返しの促進

※ 短期間・短時間使用の場合における満タン給油はトラブル防止の為に十分な説明を行うこと

(D) 灯油・都市ガス・LPGガス等を効率よく運用する

(E) お客様へエコ整備及びエコドライブを推進する

環境方針2 資源の効率的利用

取組項目

イ) 水使用量の削減

- ① 水道の蛇口を全開にする等、水圧を上げ過ぎないようにする
- ② 水を出したまま作業を継続しないようにする等、使用量を適正にし無駄な使用をしないように取組む
- ③ ストップノズルを取付ける等、水を無駄に使用しないように努める
 - ※ 手作業で洗車を行う全ての拠点に設置されている
- ④ 漏水の定期点検 春季～秋季：1回/2カ月 冬季：1回/1ヶ月
 - ※ 設備が老朽化している場合は点検間隔を短くする
 - ※ 門型洗車機を有する拠点は効率的な活用に努める
 - ※ 冬季は漏水が発生しやすくなっている為、現存設備の他、過去の漏水箇所を併せて点検する
 - ※ 冬季に点検できない箇所がある場合は水道使用量を先月・昨年・漏水が無かった年と比較して確認する

⑤ 環境経営計画・方針及び目標を達成するための取組

当期環境経営計画・方針及び環境経営目標を達成するための取組 その1-2

環境方針3 廃棄物の排出抑制と適正処理

取組項目

イ) 紙使用量の削減

- ① プリンターで印刷を行う際は両面印刷や片面複数印刷(割付)等の機能を活用し、コピー用紙使用量を抑制する
- ② 裏面の利用や両面コピー、電子メールを活用しペーパーレスに努める
- ③ コピー終了時は設定を初期化し、次に使用する者の余分な印字を防止する
- ④ 社内間の事務連絡等に封筒を使用する場合、使用済みの封筒を再利用するよう務める
- ⑤ 公文書以外の書類は裏面が利用可能な場合裏面を利用して印字するように努める

ロ) 廃棄物の分別と適正処理

- ① 使い捨て製品を避け、リターナブル容器に入った製品を優先的に購入する
- ② 再使用又はリサイクルしやすい製品を優先的に購入する
- ③ 古紙類や金属屑及び廃プラスチック等、再生化できる廃棄物は出来る限り再生化に努める

環境方針4 地球環境の保全

取組項目

イ) PRTR法特定化学物質使用・購入量の削減

- ① 化学物質製品を余分に使用しないよう努める
- ② 環境負荷が懸念される化学物質を代替物質へと切替える
- ③ 化学物質を適正に管理し、定期的にSDS安全チェックシートの確認を行う
- ④ PRTR法特定化学物質の購入量を記録・管理する

ロ) 中古・リビルト部品等やグリーン購入の推進

- ① ユーザーに対して中古部品やリビルト部品の提案を積極的に推進する
- ② 中古部品やリビルト部品等の良質な供給者を確保する
- ③ 事務用品等購入に際し、グリーン購入法適合マーク商品をなるべく購入するよう務める

環境方針5 自動車販売・整備などの経営活動を通じて環境保全に配慮する

取組項目

イ) 普通・急速充電器等、充電インフラの更なる整備に努める

ロ) 環境に配慮した自動車の販売及びサービス(整備・点検)の提供等

- ① 充電インフラ設備(急速充電器等)を設置し、EV・PHEV車の充電を行うことにより、温室効果ガス排出係数(本ページでは以下 排出係数 とする)が高いガソリンではなく、排出係数がガソリンより低い電力を使用することで温室効果ガスの排出抑制に努める
- ② 国土交通省が2010年3月に取りまとめを行った「自動車エコ整備に関する調査報告検討会報告書」に基づいた下記3項目を実施したエコ整備を継続して実施・推奨している
 - (A) エンジンオイル及びオイルフィルター交換
 - (B) エアクリーナーエレメント交換及び清掃
 - (C) タイヤ空気圧の適正化
- ③ お客様に車検・点検等の入庫時にエコドライブ推奨ポイントをチラシ等で案内する
- ④ EV・PHEV及びクリーンディーゼル車等の省エネ車の販売を促進する

取組方針6 環境負荷実績の把握

- ① 各月データ入力表に基づき、毎月20日~25日を目途に環境負荷実績を集計する
- ② 取組方針1~取組方針5までを適正に記録・管理する

⑤ 環境経営計画・方針及び目標を達成するための取組

当期環境経営計画・方針及び環境経営目標を達成するための取組 その1-3

環境方針7 環境管理の維持向上を図る

取組項目

イ) 環境法令の遵守

- ① 定期的に環境法令一覧表の見直しを行い、法令が遵守されているかチェックする

ロ) 環境監査の実施

- ① 内部監査を毎年1回以上実施する

ハ) 社員教育の実施

- ① 全従業員が年1回以上延べ2時間以上の研修会や社内教育を受ける

社内研修の他に朝礼やミーティングで環境経営目標達成状況を見直す等の取組も社員教育の対象となる

ニ) 緊急対応訓練の実施

- ① 年1回以上実施する オイルの漏出等、事故及び緊急事態を想定し対応策を定める

環境方針8 地域社会への貢献

取組項目

イ) 地域及び自治体の環境保全活動への参加

- ① 全従業員が年1回以上会社や地域・自治体及び組合の環境保全活動に参加する 下記は活動の一例である

(A) 新城川周辺の清掃活動 注：会社が定休日の場合は参加を見送っている

(B) 問屋町組合主催の清掃活動への参加

(C) 青森県主催 スマートムーブ通勤月間への参加

ロ) 拠点周辺の清掃及び美化活動の実施

- ① 会社周辺の清掃活動を実施する

- ② プランター等に花を植えて美化活動を行う

- ③ 構内の雑草等を定期的に処理し、景観及び道路舗装状態に悪影響が出ないようにする

⑥ 環境経営目標の年間実績表

イ) 環境経営目標の削減状況

環境経営方針	削減項目	単位	基準年度		2023年度(当期実績)			
			対象年度	実数実績	削減目標	削減目標値	実数実績	削減状況
エネルギーの 効率的利用 及び 温室効果ガスの 排出抑制	電力使用量	Kwh	2022年度	745,449.00	▲3.0%	723,085.53	751,729.00	96.19%
	電力温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	351,106.48	▲3.0%	340,573.28	354,064.36	96.19%
	ガソリン購入量	ℓ	2022年度	66,454.47	▲3.0%	64,460.84	65,794.71	97.97%
	ガソリン温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	154,174.37	▲3.0%	149,549.14	152,643.73	97.97%
	軽油購入量	ℓ	2022年度	37,147.20	▲3.0%	36,032.78	33,558.89	107.37%
	軽油温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	95,839.78	▲3.0%	92,964.58	86,581.94	107.37%
	灯油購入量	ℓ	2022年度	38,980.90	▲3.0%	37,811.47	42,647.47	88.66%
	灯油温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	97,062.44	▲3.0%	94,150.57	106,192.20	88.66%
	A重油購入量	ℓ	2022年度	20,594.10	▲3.0%	19,976.28	16,000.00	124.85%
	A重油温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	55,810.01	▲3.0%	54,135.71	43,360.00	124.85%
	都市ガス使用量	m ³	2022年度	192.00	▲3.0%	186.24	158.00	117.87%
	都市ガス温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	414.72	▲3.0%	402.28	341.28	117.87%
	LPGガス使用量	Kg	2022年度	323.40	▲3.0%	313.70	326.80	95.99%
	LPGガス温室効果ガス排出量	Kg-Co2	2022年度	970.20	▲3.0%	941.09	980.40	95.99%
	温室効果ガス総排出量	Kg-Co2	2022年度	755,378.00	▲3.0%	732,716.66	744,163.90	98.46%
資源の効率的利用	水資源使用量	m ³	2021年度	5,139.00	▲3.0%	4,984.83	4,766.00	104.59%
廃棄物排出抑制と 適正処理	一般廃棄物処分委託量	Kg	2022年度	14,198.00	▲3.0%	13,772.06	17,504.00	78.68%
	産業廃棄物処分委託量	Kg	2022年度	65,355.50	▲3.0%	63,394.84	63,047.00	100.55%
	特別管理産業廃棄物処分委託量	Kg	2022年度	681.00	▲3.0%	660.57	446.50	147.94%
	廃棄物処分委託量合計	Kg	2022年度	80,234.50	▲3.0%	77,827.47	80,997.50	96.09%
	一般廃棄物売却引渡量	Kg	2022年度	18,084.00			17,509.00	
	産業廃棄物売却引渡量	Kg	2022年度	114,795.00			109,177.00	
	廃棄物売却引渡量合計	Kg	2022年度	132,879.00			126,686.00	
地球環境の保全	PRT法特定化学物質購入量	Kg	2022年度	1,035.62	▲3.0%	1,004.55	1,102.95	91.08%

ロ) 当期及びクリーンエネルギー車普及状況

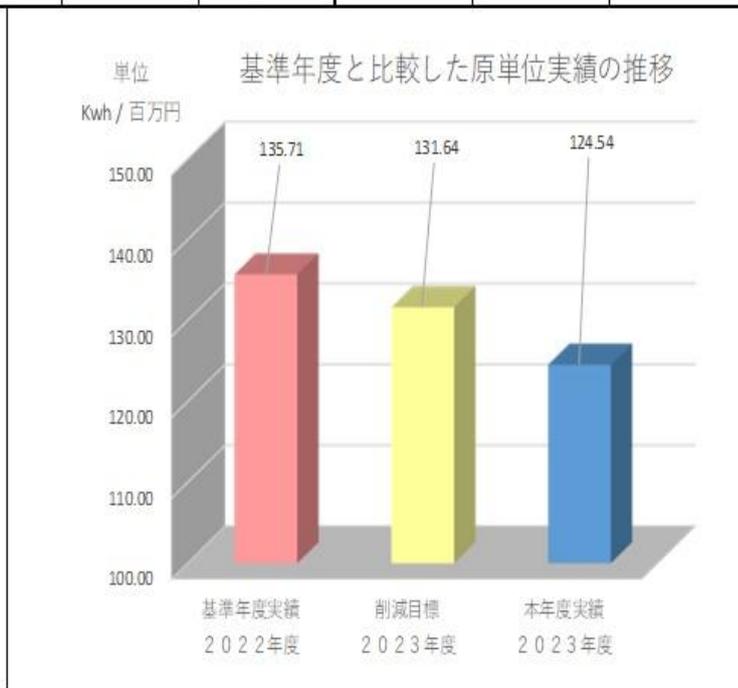
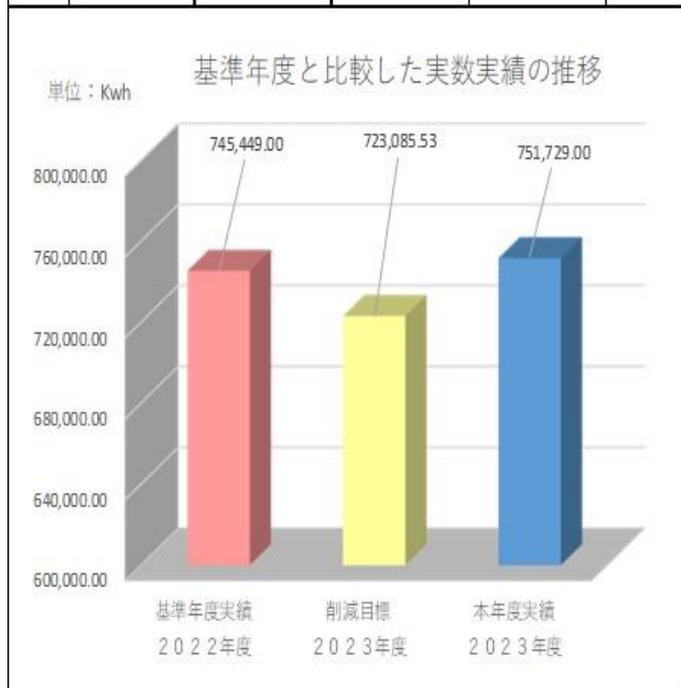
クリーンエネルギー車 販売区分	台数区分	当期 前期以前の3ヵ年販売実績			
		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度
E V 車	目標台数	60台	0台	0台	0台
	実績台数	11台	24台	0台	0台
P H E V 車	目標台数	210台	190台	79台	60台
	実績台数	138台	211台	114台	71台
クリーンディーゼル車	目標台数	100台	80台	81台	80台
	実績台数	108台	83台	122台	85台
合計台数	目標台数	370台	270台	160台	140台
	実績台数	257台	318台	236台	156台
販売目標達成状況		69.5%	117.8%	147.5%	111.4%

⑦ 環境経営目標の実績評価

1. 電力使用量の削減・抑制

削減目標 ▲ 3.0%

計算区分	単位	基準年度	本年度実績					対前年度実績		
		2022年度	2023年度		実績差異・増減及び進捗評価			2022年度		
		年間実績 ①	削減目標 ②	年間実績 ③	実績差異 ④=③-②	実績増減 ⑤=④÷②	進捗評価	年間実績 ⑦	削減実績 ⑧=③-⑦	増減率 ⑨=(⑧÷⑦)・100%
実数	Kwh	745,449.00	723,085.53	751,729.00	28,643.47	3.96%増	△	745,449.00	6,280.00	0.84%増
原単位	Kwh/百万円	135.71	131.64	124.54	▲ 7.10	5.40%減	○	135.71	▲ 11.17	8.23%減



進捗評価基準：10%以上減 → ● / 0%以上10%未満減 → ○ / 0%を超え10%以下増 → △ / 10%を超える増 → ×

集計対象10拠点の電力削減目標達成状況

実数・原単位	4拠点	実数のみ	0拠点	原単位のみ	5拠点	いずれも未達	1拠点

(A) 全体評価

- ・いずれも未達となった拠点の要因として、大型営業所の空調機器可動状況が挙げられるが、外的要因によるものであり9月に28℃を超えた日が基準年度は8日だったが本年度は16日、稼働状況が例年より長かったことと空調機器が老朽化していたこともあり、使用量の増加に拍車をかけていた。尚 本冷房は2024年度に新しい空調機器に交換が行われる予定である。
- ・原単位のみ達成した拠点の使用量に大幅な増加は無く、増加した稼働時間に対し効率よく運用が行われている。

(B) 改善事項及び次年度の環境経営目標及び取組内容

- ・次年度に空調機器の入替が行われる予定の為、排出量の変動が見込まれるが効率よく管理・運用を行いたい
- ・次年度の環境経営目標は基準年度総使用量に対し4%の削減を目指す。
- ・本年度の結果に社内に起因する結果は無かったことを踏まえ、取組内容の変更は行わない 尚 取組内容は7ページ目の環境方針1によるものである。

⑦ 環境経営目標の実績評価

2. 化石燃料の使用・購入量及び温室効果ガスの削減・抑制 (評価の便宜上、電力使用実績を本表へ含める)

削減目標 ▲ 3.0%

排出区分	計算区分	単位	基準年度	本年度実績及び評価					対前年度実績		
			2022年度	2023年度		実績差異・増減及び進捗評価			2022年度		
			年間実績	削減目標	年間実績	削減目標差異	対削減目標	評価	年間実績	削減実績	増減率
①	②	③	④ = ③ - ②	⑤ = ④ ÷ ②		⑥	⑦ = ③ - ⑥	⑧ = (③ ÷ ⑥) - 100%			
電力使用量	実数	Kwh	745,449.00	723,085.53	751,729.00	28,643.47	3.96%増	△	745,449.00	6,280.00	0.84%増
	原単位	Kwh/百万円	135.71	131.64	124.54	▲7.10	5.40%減	○	135.71	▲11.17	8.23%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	351,106.48	340,573.28	354,064.36	13,491.07	3.96%増	△	351,106.48	2,957.88	0.84%増
ガソリン購入量	実数	ℓ	66,454.47	64,460.84	65,794.71	1,333.87	2.07%増	△	66,454.47	▲659.76	0.99%減
	原単位	ℓ/百万円	12.10	11.74	10.90	▲0.84	7.12%減	○	12.10	▲1.20	9.90%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	154,174.37	149,549.14	152,643.73	3,094.59	2.07%増	△	154,174.37	▲1,530.64	0.99%減
軽油購入量	実数	ℓ	37,147.20	36,032.78	33,558.89	▲2,478.89	6.87%減	○	37,147.20	▲3,588.31	9.66%減
	原単位	ℓ/百万円	6.76	6.56	5.56	▲1.00	15.25%減	◎	6.76	▲1.20	17.79%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	95,839.78	92,964.58	86,581.94	▲6,382.65	6.87%減	○	95,839.78	▲9,257.84	9.66%減
灯油購入量	実数	ℓ	38,980.90	37,811.47	42,647.47	4,836.00	12.79%増	×	38,980.90	3,666.57	9.41%増
	原単位	ℓ/百万円	7.10	6.88	7.07	0.18	2.64%増	△	7.10	▲0.03	0.44%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	97,062.44	94,150.57	106,192.20	12,041.63	12.79%増	×	97,062.44	9,129.76	9.41%増
A重油購入量	実数	ℓ	20,594.10	19,976.28	16,000.00	▲3,976.28	19.90%減	◎	20,594.10	▲4,594.10	22.31%減
	原単位	ℓ/百万円	3.75	3.64	2.65	▲0.99	27.11%減	◎	3.75	▲1.10	29.30%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	55,810.01	54,135.71	43,360.00	▲10,775.71	19.90%減	◎	55,810.01	▲12,450.01	22.31%減
都市ガス使用量	実数	ℓ	192.00	186.24	158.00	▲28.24	15.16%減	◎	192.00	▲34.00	17.71%減
	原単位	ℓ/百万円	0.03	0.03	0.03	▲0.01	22.80%減	◎	0.03	▲0.01	25.11%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	414.72	402.28	341.28	▲61.00	15.16%減	◎	414.72	▲73.44	17.71%減
LPGガス使用量	実数	ℓ	323.40	313.70	326.80	13.10	4.18%増	△	323.40	3.40	1.05%増
	原単位	ℓ/百万円	0.06	0.06	0.05	▲0.00	5.20%減	○	0.06	▲0.00	8.04%減
	温室効果ガス排出量	Kg - Co2	970.20	941.09	980.40	39.31	4.18%増	△	970.20	10.20	1.05%増
温室効果ガス総排出量	実数	Kg - Co2	755,378.00	732,716.66	744,163.90	11,447.25	1.56%増	△	755,378.00	▲11,214.09	1.48%減
	原単位	Kg - Co2/百万円	137.52	133.39	123.29	▲10.11	7.58%減	○	137.52	▲14.23	10.35%減

進捗評価基準：10%以上減 → ◎ / 0%以上10%未満減 → ○ / 0%を超え10%以下増 → △ / 10%を超える増 → ×

集計対象11拠点の
温室効果ガス削減目標達成状況

実数・原単位 5拠点 実数のみ 5拠点 原単位のみ 0拠点 いずれも未達 1拠点

(A) 全体評価

- ・軽油の購入量に大きな変動が見受けられるが、本年度は積雪が基準年度に対し少なく除排雪の頻度が基準年度よりも減少していることが主な要因である。また、本年度は売上が増加したことにより積載車の稼働件数が増加しているが、除排雪の回数が減少したこと積載車稼働が増加したことにより生じた購入量を補う形となった。
- ・灯油の購入量が大幅に増加しているが、最低気温が基準年度に対し低い日が多くなったことにより、工場のスポットヒーターの火力を高くするケース等が要因である。尚 LPGガスも影響を受けており、青森・弘前方面とは異なり、八戸・十和田地区で3月の最高・最低気温が低い日が続いたことで給湯関係を中心とした使用が増加している。
- ・いずれも未達となった拠点はガソリンがやや増加、軽油・LPGガスを大幅に削減していたが灯油購入量が大幅に増加したことにより、最終的に温室効果ガス総排出量の目標を達成することができなかった。

(B) 改善事項及び次年度の環境経営目標及び取組内容

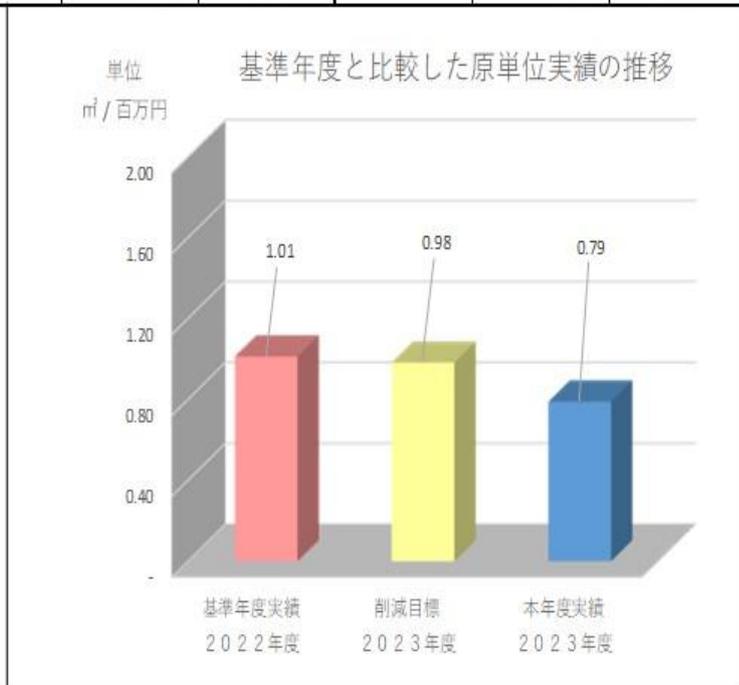
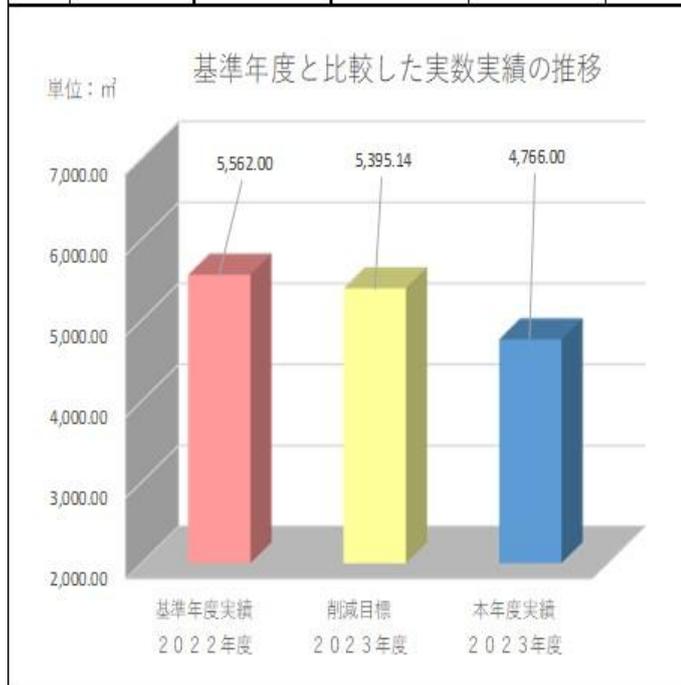
- ・次年度の環境経営目標は基準年度総使用量に対し4%の削減を目指す。
 - ・本年度の結果に社内に起因する結果は無かったことを踏まえ、取組内容の変更は行わない 尚 取組内容は7ページ目の 環境方針1によるものである。
 - ・次年度はボイラーから空調機器へ変更されるため、A重油は次年度以降購入予定は無く、代わりに電力使用量が増加する見込みである。
- また、現時点の電力の温室効果ガス排出係数は0.471であり、A重油の温室効果ガス排出係数2.710より係数が低いため温室効果ガス総排出量の抑制が見込まれている。

⑦ 環境経営目標の実績評価

3. 水資源使用量の削減

削減目標 ▲ 3.0%

計算区分	単位	基準年度	本年度実績					対前年度実績		
		2022年度	2023年度		実績差異・増減及び進捗評価			2022年度		
		年間実績 ①	削減目標 ②	年間実績 ③	実績差異 ④=③-②	実績増減 ⑤=④÷②	進捗評価 -	年間実績 ⑦	削減実績 ⑧=③-⑦	増減率 ⑨=(⑧÷⑦)・100%
実数	m ³	5,562.00	5,395.14	4,766.00	▲ 629.14	11.66% 減	◎	5,562.00	▲ 796.00	14.31% 減
原単位	m ³ /百万円	1.01	0.98	0.79	▲ 0.19	19.61% 減	◎	1.01	▲ 0.22	22.02% 減



進捗評価基準：10%以上減 → ◎ / 0%以上10%未満減 → ○ / 0%を超え10%以下増 → △ / 10%を超える増 → ×

集計対象10拠点の
水資源使用量削減目標達成状況

評価項目	実数・原単位	6拠点	実数のみ	2拠点	原単位のみ	1拠点	いずれも未達	1拠点
水資源使用量削減目標達成状況								

(A) 全体評価

- ・ここ数年の増加要因となっていた水道管破損や洗濯機の故障による漏水は本年度は発生しなかった。
- ・ストップノズルの破損や水を流したまま作業する等の無駄な水資源の消費は無かった
- ・いずれも未達となった拠点については売上が増加したことにより溶剤型塗料用着色剤の使用量が増加したことが要因である。

(B) 改善事項及び次年度の環境経営目標及び取組内容

- ・次年度の環境経営目標は基準年度総使用量に対し4%の削減を目指す。
- ・本年度の結果に社内に起因する結果は無かったことを踏まえ、取組内容の変更は行わない 尚 取組内容は7ページ目の 環境方針2によるものである。
- ・実数のみ削減目標達成することができている拠点は結果としては申し分ないが、原単位削減目標を達成することができていないことから使用状況に無駄がなかったか確認の上、次年度の取組を行う。

⑦ 環境経営目標の実績評価

4. 廃棄物の排出抑制と適正管理

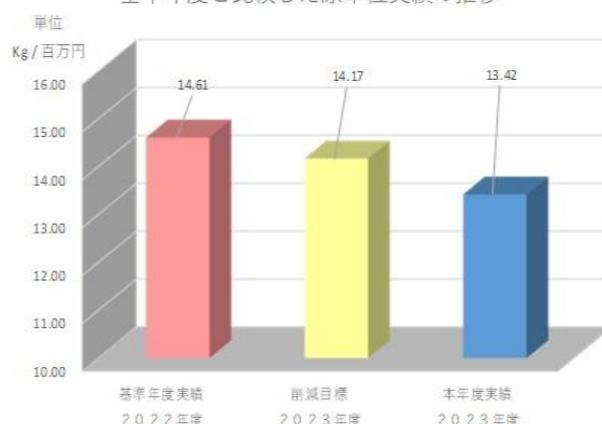
削減目標 ▲3.0%

種別	計算区分	単位	基準年度	本年度実績及び評価			対前年度実績				
			2022年度	2023年度		実績差異・増減及び進捗評価					
			年間実績 ①	削減目標 ②	年間実績 ③	実績差異 ④=③-②	実績増減 ⑤=④÷②	進捗評価 -	2022年度 年間実績 ⑦	削減実績 ⑧=③-⑦	増減率 ⑨=(⑧÷⑦)100%
一般廃棄物処分委託量	実数	Kg	14,198.00	13,772.06	17,504.00	3,731.94	27.10%増	×	14,198.00	3,306.00	23.28%増
	原単位	Kg/百万円	2.58	2.51	2.90	0.39	15.66%増	×	2.58	0.32	12.19%増
産業廃棄物処分委託量	実数	Kg	65,355.50	63,394.84	63,047.00	▲347.83	0.55%減	○	65,355.50	▲2,308.50	3.53%減
	原単位	Kg/百万円	11.90	11.54	10.44	▲1.10	9.50%減	○	11.90	▲1.45	12.21%減
特別管理産業廃棄物処分委託量	実数	Kg	681.00	660.57	446.50	▲214.07	32.41%減	◎	681.00	▲234.50	34.43%減
	原単位	Kg/百万円	0.12	0.12	0.07	▲0.05	38.49%減	◎	0.12	▲0.05	40.34%減
廃棄物処分委託量合計	実数	Kg	80,234.50	77,827.47	80,997.50	3,170.04	4.07%増	△	80,234.50	763.00	0.95%増
	原単位	Kg/百万円	14.61	14.17	13.42	▲0.75	5.29%減	○	14.61	▲1.19	8.13%減
一般廃棄物売却引渡容量	実数	Kg	18,084.00		17,509.00				18,084.00		3.18%減
	原単位	Kg/百万円	3.29		2.90				3.29		11.89%減
産業廃棄物売却引渡容量	実数	Kg	114,795.00		109,177.00				114,795.00		4.89%減
	原単位	Kg/百万円	20.90		18.09				20.90		13.45%減
廃棄物売却引渡容量合計	実数	Kg	132,879.00		126,686.00				132,879.00		4.66%減
	原単位	Kg/百万円	24.19		20.99				24.19		13.24%減

基準年度と比較した実数実績の推移



基準年度と比較した原単位実績の推移



進捗評価基準：10%以上減 → ◎ / 0%以上10%未満減 → ○ / 0%を超え10%以下増 → △ / 10%を超える増 → ×

集計対象9拠点の廃棄物処分委託量削減目標達成状況
 実数・原単位 4拠点 実数のみ 0拠点 原単位のみ 3拠点 いずれも未達 2拠点

(A) 全体評価

- 一般廃棄物処分委託量が増加しているが、増加の要因はいずれも未達となった拠点であり、各拠点共に機密文書の処分を実施したことが要因である。本処分では増加した排出量約3,500Kgの半数以上を占める約2,600Kgの機密文書が処理されており、このほか約500Kgは売上が大幅に増加した3拠点から排出されているが、3拠点は原単位削減目標を達成することができている。尚 残りの増加約400Kgは廃棄物処理施設に可燃ごみを自社運搬している拠点より排出され、本年度はその中に機密文書を含めて処分を行っていたことにより増加していた為である。
- 産業廃棄物処分委託量は基準年度に対し排出量をわずかではあるが削減することができている。また、排出量の内約1,500Kgは不定期年度に行われる本社の倉庫整理により発生した為、倉庫整理を除いた場合、本年度の約2,300Kgの削減実績が実質約3,800Kgの削減実績となり、分別等の取組を確実に実施している。
- 産業廃棄物処分委託量の内、再資源化された廃棄物は約15,100Kgである。
- 特別管理産業廃棄物処分委託量の内、再資源化された廃棄物は約111Kgである。

(B) 改善事項及び次年度の環境経営目標及び取組内容

- 次年度の環境経営目標は基準年度総使用量に対し4%の削減を目指す。
- 本年度の結果に不適切事項が無かったことを踏まえ、取組内容の変更は行わない 尚 取組内容は7ページ目の 環境方針3によるものである。

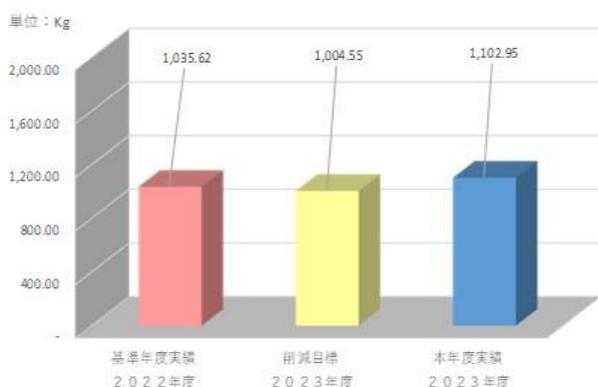
⑦ 環境経営目標の実績評価

5. P R T R 法特定化学物質購入量の削減

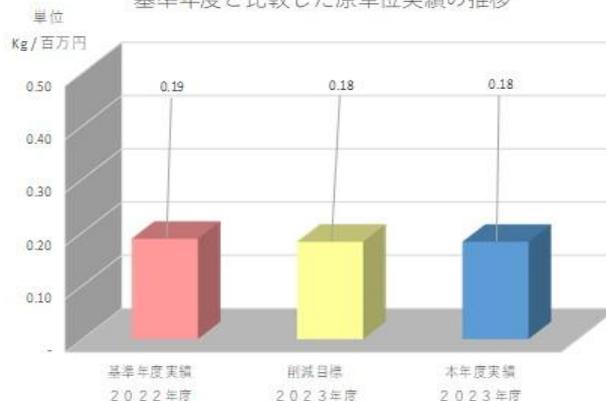
削減目標 ▲ 3.0 %

種 別	区 分	単 位	本 年 度 実 績 及 び 評 価						対 前 年 度 実 績			
			2022年度		2023年度		実績差異・増減及び進捗評価		2022年度		削減実績	増減率
			年間実績	削減目標	年間実績	実績差異	実績増減	進捗評価	年間実績	削減率		
①	②	③	④ = ③ - ②	⑤ = ④ ÷ ②	-	⑦	⑧ = ③ - ⑦	⑨ = (⑧ ÷ ⑦) × 100%				
キシレン	実数	Kg	126.59	122.79	162.94	40.15	32.70%増	×	126.59	36.35	28.72%増	
	原単位	Kg/百万円	0.02	0.02	0.03	0.00	20.76%増	×	0.02	0.00	17.13%増	
トルエン	実数	Kg	236.78	229.68	259.22	29.55	12.86%増	×	236.78	22.44	9.48%増	
	原単位	Kg/百万円	0.04	0.04	0.04	0.00	2.71%増	△	0.04	▲0.00	0.37%減	
エチルベンゼン	実数	Kg	59.83	58.04	79.86	21.83	37.61%増	×	59.83	20.03	33.48%増	
	原単位	Kg/百万円	0.01	0.01	0.01	0.00	25.22%増	×	0.01	0.00	21.47%増	
その他特定化学物質	実数	Kg	450.02	436.52	436.72	0.21	0.05%増	△	450.02	▲13.30	2.95%減	
	原単位	Kg/百万円	0.08	0.08	0.07	▲0.01	8.96%減	○	0.08	▲0.01	11.69%減	
フロン-CFC	実数	Kg	-	-	3.00	3.00	-%	-	-	3.00	-%	
	原単位	Kg/百万円	-	-	0.00	0.00	-%	-	-	0.00	-%	
フロン-HFC	実数	Kg	162.40	157.53	161.20	3.67	2.33%増	△	162.40	▲1.20	0.74%減	
	原単位	Kg/百万円	0.03	0.03	0.03	▲0.00	6.88%減	○	0.03	▲0.00	9.67%減	
P R T R 法 特定化学物質購入量	実数	Kg	1,035.62	1,004.55	1,102.95	98.40	9.80%増	△	1,035.62	67.33	6.50%増	
	原単位	Kg/百万円	0.19	0.18	0.18	▲0.00	0.09%減	○	0.19	▲0.01	3.08%減	

基準年度と比較した実数実績の推移



基準年度と比較した原単位実績の推移



進捗評価基準：10%以上減 → ● / 0%以上10%未満減 → ○ / 0%を超え10%以下増 → △ / 10%を超える増 → ×

集計対象9拠点の
化学物質購入量削減目標達成状況

実数・原単位	3 拠点	実数のみ	0 拠点	原単位のみ	3 拠点	いずれも未達	3 拠点
--------	------	------	------	-------	------	--------	------

(A) 全体評価

・トータルで見た場合増加量はわずかではあるが、削減目標をいずれも未達となった拠点が3拠点あり、増加要因は下記の通りである

拠点1：内容量15Kgの床塗料を7個購入している。これは基準年度の購入実績に含まれていなかった。

拠点2：鍍金及び塗装をメインとする拠点で溶剤系塗料用着色剤の購入量が増加している。

拠点3：フロンガス（HFC）の購入量が18Kg増加したこと。

(B) 改善事項及び次年度の環境経営目標及び取組内容

・次年度の環境経営目標は基準年度総購入量に対し4%の削減を目指す。

・本年度の結果に不適切事項が無いことを踏まえ取組内容の変更は行わない 尚 取組内容は7ページ目の 環境方針4によるものである。

⑦ 環境経営目標の実績評価

6. 環境活動計画の取組結果とその評価

イ) 普通・急速充電器等、充電インフラの更なる整備に努める

- ① 普通充電器を全店舗に配備している
- ② 急速充電器は青森西バイパス店・弘前店・五所川原店・八戸下長店・十和田店・むつ店・スズキアリーナ合浦公園・スズキアリーナ八戸駅通に配備している
- ③ 普通・急速充電設備の設置状況等をチラシを店頭へ掲示する等、お客様にアピールを継続している

ロ) 環境に配慮した自動車の販売及びサービス（整備・点検）の提供等

- ① エコ整備に該当する整備を12,252台実施した ※ 下記3項目を実施した整備をエコ整備という エコ整備の定義は 8ページ目 環境方針5 ロ) ② を参照
 - (A) エンジンオイル及びオイルフィルター交換
 - (B) エアクリーナエレメント交換及び清掃
 - (C) タイヤ空気圧の適正化
- ② 車検等のタイミングでお客様へエコドライブ推奨及び取組む際のポイントをチラシや掲示物等を用いた案内を継続している
- ③ EV・PHEV及びクリーンディーゼル車の販売目標を定め普及を継続している。
 - ・目標は EV車が60台 PHEV車が210台 クリーンディーゼル車を100台 合計で370台とした
 - ・実績は EV車が11台 PHEV車が138台 クリーンディーゼル車が108台 合計で257台となり、達成率は69.5%となった
- ④ 目標台数は設定していないが、低燃費車・ハイブリッド車の販売普及に努めている

環境配慮自動車の販売：EV・PHEV車/クリーンディーゼル車/ハイブリッド車/低燃費車

※画像は全て三菱自動車工業株式会社様とスズキ株式会社様のホームページより引用

ホームページURLは下記の通り

三菱自動車工業株式会社様 <https://www.mitsubishi-motors.co.jp/>

スズキ株式会社様 <https://www.suzuki.co.jp/>

PHEV	
<p>アウトランダーPHEV</p> 	<p>エクリプスクロスPHEV</p> 
EV	
<p>E-KクロスEV</p> 	<p>ミニキャブEV</p> 
クリーンディーゼル	
<p>デリカD:5</p> 	<p>トライトン</p> 
ハイブリッド	
<p>デリカD:2</p> 	<p>アルト</p> 
<p>クロスビー</p> 	<p>スペーシア</p> 
他4台	

・EV車及びPHEV車を中心とし、ハイブリッド車や低燃費車の販売普及し、社有車として上記車両を保有している場合はエコ整備・車検等を通じ、環境負荷の低減に努めたい

⑦ 環境経営目標の実績評価

7. 環境負荷実績の把握

- (1) 各月データ入力表に基づき、毎月20日～25日を目標に環境負荷実績を集計する
 - ① 全拠点で各月データ入力表の入力及び事務局で実績の確認
 - ② PRTR法特定化学物質概算購入量の記録・管理を継続
 - ③ 事務用品用紙類やウェス・リビルト部品等の入力が行われている

8. 環境管理の維持向上を図る

- (1) 環境法令の遵守
 - ① 定期的に環境法令一覧表の見直しを行い、法令が遵守されているかチェックする
 - ② 各担当者が更新状況を失念しないように記録を電子化を行い速やかに閲覧できるようにしている
- (2) 環境監査の実施
 - ① 毎年10月を目安として内部環境監査を実施している
- (3) 社員教育の実施
 - ① 社内研修の他、朝礼やミーティング等のタイミングで新規法令の説明や現在の環境経営目標達成状況の見直し等の取組を行っている
- (4) 緊急対応訓練の実施
 - ① オイルの漏出等、事故及び緊急事態を想定し対応策を定める
 - ① 年1回以上実施している



9. 地域社会への貢献

- (1) 地域及び自治体の環境保全活動への参加
 - ① 全従業員が年1回以上会社や地域・自治体及び組合の環境保全活動に参加する
 - (ア) 問屋町組合主催の清掃活動への参加
 - (イ) 青森県主催 スマートムーブ通勤月間への参加
 - (ウ) 新城川周辺の清掃活動 → 定休日につき参加見送り
- (2) 拠点周辺の清掃及び美化活動の実施
 - ① 会社周辺の清掃活動を実施する → 各拠点年1回以上実施
 - ② プランター等に花を植えて美化活動を行う → 各拠点随時取組
 - ③ 構内の雑草等を定期的に処理し、景観及び道路舗装状態に悪影響が出ないようにする → 各拠点随時取組



⑧ 環境関連法規等の遵守状況及び評価結果、違反・訴訟・苦情等の有無

環境関連法規順守項目	測定・監視項目及び測定基準	測定・監視頻度	測定・実施場所	確認結果
水質汚濁防止	イ 排水の水質測定 1. 条例に基づく排水規制及び門型洗濯機保有営業所 2. 排水基準の運用	1 回 / 1 年	排水出口 回収後速やかに 測定機関へ持込 保管部門	○ 2023年度測定実施済 青森西バイパス・弘前・八戸下長・十和田・むつ 8店舗
	ロ 門型洗濯機等の特定施設届出 1. 特定施設設置届出書の確認	1 回 / 年	保管部門	○ 3店舗 届出済
	ハ 油水分離槽の点検・保守 1. 点検・清掃の実施	1 回 / 6 ヶ月	油水分離槽	○ 全店
	ニ 排水溝の保守 1. 清掃の実施	1 回 / 6 ヶ月	排水溝	○ 全店
	ホ 浄化槽の点検・保守 1. 清掃の実施・定期点検（保守点検）・第11条法定点検	1 回 / 年	浄化槽清掃	○ 五所川原・むつ・スズキアリーナ八戸駅通 実施済 ○ 浄化槽種別等に応じて 定期点検（保守点検） ○ 1 回 / 年 第11条法定点検 ○ 十和田 十和田市指定維持管理者 実施済
	ヘ 廃油タンク周りの油漏れ 1. タンク亀裂・油垂れ等のチェック	1 回 / 月	廃油タンク周り	○ 定期的に実施 亀裂・油漏れなし
	大気汚染防止	イ ボイラーの届出 1. ばい煙発生施設届出書の確認	1 回 / 年	保管部門
騒音・振動防止	イ エアコンプレッサー・エアコン等室外機の騒音測定 1. 日中 60dB以下 2. 夜間 50dB以下	1 回 / 年	敷地境界	○ 平成20年実施済 以後問題なし 青森西バイパス・八戸下長 基準内
	ロ エアコンプレッサー等の届出 1. 特定施設設置届出書の確認	1 回 / 年	保管部門	○ 青森西バイパス・八戸下長 届出済
廃棄物処理	イ 産業廃棄物の適正保管 1. 保管場所の表示・保管状況	1 回 / 月	廃棄物保管場	○ 青森西バイパス店 弘前及びスズキアリーナ弘前高崎・五所川原店 八戸下長店・十和田店・むつ店 問屋町ボディー工場 スズキアリーナ合浦公園・スズキアリーナ八戸駅通
	ロ 産業廃棄物マニフェストの交付・回収 1. B2票 90日以内 2. D票 90日以内 3. E票 180日以内	1 回 / 月	交付部門	○
	ハ 委託契約書の締結・更新 1. 産業廃棄物委託契約書の確認	1 回 / 年	保管部門	○ 本社
	ニ 実績の報告 1. 廃棄物管理票交付状況等報告	1 回 / 年	保管部門	○ 2022年度 全拠点報告済
使用済自動車処理	イ 電子マニフェストの移動報告 1. 引取報告 使用済車引取後3日以内 2. 引渡報告 引取報告後30日以内かつ使用済車引渡し後3日以内	1 回 / 年	移動報告実施部門	○ 問屋町ボディー工場を除く全ての営業所
危険物管理（危険物第4類）	イ 危険物の適正貯蔵 1. 危険物取扱表示・貯蔵量のチェック	1 回 / 月	貯油庫	○ 全店
	ロ 危険物貯蔵の届出 1. 届出済の確認	1 回 / 年	保管部門	○ 全店
フロン排出抑制	イ 定格電力7.5Kwh以上のエアコン室外機 1. 定期点検の実施	1 回 / 年	保管部門	○ 八戸下長
地盤沈下防止	イ 地下水採取の規制 1. 地下水採取量の測定及び報告の確認	1 回 / 年	担当部門	○ 青森西バイパス 報告済（報告は年2回）

[確認結果] ○：適合 △：一部不適合 ×：不適合

(A) 全体評価

- ・上記法令に関する違反はなかった
- ・関係当局より違反の指摘、訴訟は過去3年間無かった
- ・社外より苦情の受付は無かった
- ・各種届出は適正に行われている
- ・各種点検及び清掃等、管理運用は適切に行われている

(B) 改善事項及び次年度の環境経営目標及び取組内容

- ・現時点で適切に管理・運用が行われている為、取組内容の変更は行わない

尚 取組内容は 9 ページ目の 環境方針 7 イ) 環境法令の遵守 によるものである

⑨ 2023年度 代表者における全体評価及び課題とチャンスの明確化

(A) 全体評価

イ) 環境経営方針

- ・現方針に変更が生じる法令改正及び実績の乖離が無かったが、今後も法令等の動向に注視し、変更が必要であれば対応すること。

ロ) 環境活動計画

- ・5Sチェックを導入して以降、目に見えるところは変わらずきれいに運用されているが、立入が少ない箇所は改善が必要な箇所が残っており、根気強く今後も整理整頓の意識づけを進めていく必要がある。
- ・緊急対応訓練の計画において引き延ばしが見受けられる場合は繁忙期を避け、期間を指定して実施すること

ハ) 実施体制

- ・今後も責任者及び推進員等の変更状況に応じて計画等に影響が出ないよう事務局側から確認を継続すること。

二) 環境経営目標全拠点達成状況

- ・実数の削減目標を達成することができなかった箇所は一般廃棄物を除き原単位で達成することができていることを踏まえ、取組を今後も継続していく。また、数年に1度行われる倉庫整理や保管期間を終えた書類の処理が複数拠点でまとめて発生したことで一般廃棄物が増加しているが増加分を差し引いた場合は基準年度より減少していることを踏まえて取組を有効と判断し、継続したい。

ホ) 環境関連法規

- ・現時点で問題は見受けられないことから今後も法令の変更状況を注視し、必要に応じて速やかに対応すること。

(B) 課題とチャンス

イ) 社外における課題（事業を行う上で外的要因による弱みや問題点等）

- ・PHEVはカーボンニュートラルにベストセレクト車と言われており、三菱は業界で唯一2種類のラインナップがあるが、普及拡大に向けたメーカーのPR体制の充足が望まれる。

ロ) 社外におけるチャンス（事業を行う上で外的要因に対し、有利な点やアピールポイント等）

- ・販売上の強みであるPHEVと軽EVの普及に努める。
- ・ネット活用をはじめとした情報発信力強化へ向けた取り組みに努めている。

ハ) 社内における課題（事業を行う上で社内環境に起因する改善中の取組や問題点等）

- ・三菱はPHEV・EV車を世界に先駆けて商品化している。我が社でも販売を積極的に進めており、スタッフの意識・知識・技術レベルも電動車両先駆者に相応しいものにしなければならない。
- ・情報発信力が問われる時代であり、広報宣伝媒体の活用方法及びコンテンツ等の工夫が必要である。

二) 社内におけるチャンス（事業を行う上で社内環境に対する強み）

- ・PHEV・EVのスペシャリストが各店毎の営業・サービス部門に配置されており、電動車両先駆者に相応しい体制を構築している。
- ・全部署で風通しの良い明るい職場風土づくりに着手しており、意識改革を推進している。